

標 題 : Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio, Mediterranean Diet, and Bone Health in Coeliac Disease Patients: A Pilot Study.
セリアック病の患者における好中球ーリンパ球比、地中海食事および骨の健康 : 予備研究

著 者 : F. Palmacci, et al. (イタリア ローマ・ラ・サピエンツァ大学
化学・薬剤技術学部)

掲 載 誌 : Oxid. Med. Cell. Longev. 2019 Jun 20; 2019: 7384193

要 旨 :

好中球ーリンパ球比(NLR)は閉経後女性で骨量減少の指標として提案され、セリアックの患者では炎症のマーカーとして提案された。

この研究の目的は、好中球ーリンパ球比に対する無グルテン食事(GFD)の影響をさかのぼって評価して、好中球ーリンパ球比と地中海食事の順守および選択した食品群(果物、野菜、赤身肉、ジャガイモ、および未精製と精製の穀物)との間の関連を研究することであった。

厳格な無グルテン食事を少なくとも6ヵ月摂取した成人(n=50)を募集した。

地中海食事の順守の度合を2種類のスコアで計算した: PREDIMED 研究の認証済14項目アンケートで評価した地中海食事スコア(MDS-14)、および Panagiotakos によって提案された MED スコア (Score-55)。

後者は未精製穀物(UC)の摂取を含める。

骨減少症および骨粗鬆症の高い比率が、募集した被験者で骨ミネラル濃度(BMD)の報告を提供した人々、特に閉経後(Post-M)の女性にみられた。

最近の好中球ーリンパ球比は、骨減少症および正常な骨ミネラル濃度と比較して骨粗鬆症の被験者で高かった。

しかし、さかのぼっての解析が無グルテン食事後に好中球ーリンパ球比の増加と減少の両方を示したので、Marsh grade、貧血と骨ミネラル濃度の状況との間には有意差はなかった。

その上、閉経前で過去の妊娠(Pre-MPP)および閉経後は、男性および閉経前と比較して診断時に好中球ーリンパ球比が高かったが、Pre-MPP と男性だけの間で最近の好中球ーリンパ球比に高い差が観察された。

チョコレート摂取は低い最近の好中球ーリンパ球比と関連し、後者は Score-55 と関連したが MDS-14 とは関連しなかった。

その上、精製穀物は最近の好中球ーリンパ球比と関連した。

セリアックの患者で未精製の穀物と好中球ーリンパ球比との間の関連を明らかにするためには大規模な追跡研究が必要であるけれども、我々は最初に好中球ーリンパ球比、食事習慣と骨粗鬆症との間の関連をセリアック病で調査した。
